



人権教育だより

京丹後市立大宮中学校

令和6年11月27日

No.10



2学期の人権学習のテーマは「障がいのある人の人権」です。各学年の学習と考えたことを紹介します。(文章は一部編集しています)



2年生

2年生では、障がいのある人が日常生活でどのようなことに困っているかを、相手の立場になって考えました。また、行動することの大切さや一人ひとりができることを話し合い、実際の場面でどのように実践できるかについても考えました。

社会には、物理的なバリア、思い込みによるバリアなどの様々なバリアがあることを再確認することができた。物理的なバリアをなくすということはすぐにはできないけど、思い込みなど行動に関することは私たちにできることだから、まずは勝手な思い込みや偏見をなくしたい。

公平が大事。今の社会では、ある程度の理解は広まっているけど、やっぱりまだバリアはたくさんあるから、パラリンピックなどを通して理解を広めていくことが大切だと思った。

マセソンさんの嫌な思い出に、車いすユーザーのためレストランで良い景色を見ながら食べたいという思いが叶わなかったということがあり、悲しかったらうなと思った。

みんなが気持ちよく過ごせるような社会にするために私たちができることをしたい。

障がいのある人と障害のない人、関係なくお互いを思って行動することが大切だと思った。

誰にでも平等に接したり、迷惑にならない気遣いをしたりしていくことが大切だと思った。

障がいのある方だからと差別をせず、「障がいのない人たちと公平に」という考え方をしている良いと思った。私たちも障がいのある方に会ったら、差別をせず公平な態度・行動で接していきたい。

バリアがあり困っていることもあると思うけど、ちゃんとみんなが工夫しているおかげで心地よく生きられているのだなと思った。自分たちのできることを探していきたい。

人生の途中で事故に遭い、途中から車いす生活になった方の話を聞き、精神的に辛かったらうなと思った。そして今まで当たり前でできていたことができなくなったり、悲しい思いをしていたりすることを知って、私たちにできることやその人たちのためになることをしたいと思った。困っている人がいたら助ける。そしてわたしが困っていたら助けてもらう。助け合いがないといけないと思った。

車いすだからと差別するのではなく、他の人たちと公平になるような配慮をすることで、その人は温かい気持ちになれるのだと分かった。障害のある人に対しての接し方が自分では悪気はなくても、その人は嫌な思いをしているかもしれないから、その人の気持ちをよく考えて接したい。少しでも行動のバリアや社会のバリアを減らしたい。障害のある人を助けようとする行動は、その人の心を温かくしたり笑顔をもたらしたりできるから、優しく接する気持ちを大切にしたい。

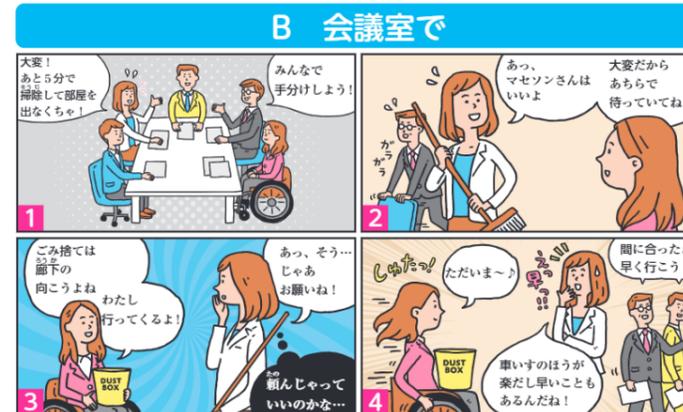
障害のある人用の席があるからいいというわけではなく、障害のある人も障害のない人も平等に楽しめるということが大切だということが分かった。また、そうするためには障がいのある人に対する思いやりの気持ちが大切だと思った。思いやりも、思い込みによる思いやりではなく、しっかりと想像して思いやるのが大切だと思った。

社会には物理的バリアや思い込みなど様々なバリアがあって、それを全て理解することは難しいだろうけど、一度立ち止まって「これはバリアになるのか」「このバリアを上手くなくすることはできないだろうか」と考えることが大切だと思った。

障がいのない人とある人で共生していくことが大切だと分かった。障がいのある人に変に気を遣うのではなく、その人がどうしたいと思っているのか考えて接することで共生していくことができると思った。

みんなも考えてみよう!

A・Bの漫画を読んで、感想や考えたことを書こう。(黒い吹き出しは「心の声」を表しています。)



<A・Bの漫画から2年生が考えたこと>

A 気にかけていることはいいと思うけど、いきなり肩をつかまれたら驚くし、事故につながってしまう恐れもあるから、声を先にかけた方がいいと思った。

B 「大変だからあちらで待っていてね」という発言は気遣って言ったのだと思うけれど、失礼に当たるかもしれないし、差別とか偏見っぽいから、もう少し考えて発言したほうがいいと思った。

みなさんは車いすユーザーのれいさんにどのような声をかけますか?おうちの人とぜひ話し合ってみてください。

これまでの学習を踏まえて、次の漫画の「?」にあてはまる言葉をグループ(班)で考えて書いてみよう。

